

「木蓮の花を見ながら」

本山単頭 柴田康裕老師

ご本山では、毎年3月に入りますと、大祖堂前の木蓮が可憐な花を咲かせます。

今から30年ほど前、私が始めてご本山に修行にまいりました時に、美しく開花したその木蓮を見ながら、暖かい春の訪れを、それまで味わったことのない大きな喜びをもって感じた記憶がございます。

暦の上ではすでに春とは言いながら、2月のご本山は1年の中では最も寒く感じられます。節分に大雪が降ったこともございますし、風邪が蔓延して予定されていた行持が中止になったこともございます。

小雪を舞い散らせながら吹き抜ける寒風の中を、靴下もはかずに裸足で廊下の雑巾がけなどしておりますので、かかとがひび割れて、まるでザクロのような状態になることさえあります。時には傷口から血が出て、畳や廊下の床を赤く汚すこともありました。

そのような時に見た木蓮の花は、「ようやく厳しい寒さを乗り越えて、これから暖かい本格的な春がやってくる」といった、一つの関門を通り抜けたような、何とも言えない安らぎと心地よさを、私に与えてくれたのでした。

現在は暖冬ということもあり、開花の時期も少し早くなっているようですが、それでも木蓮の花を見るたびに、あの頃の事を懐かしく思い返しております。

今の修行僧たちも、おそらくその時の私と同じような気持ちで、木蓮の花を見つめているのではないのでしょうか。

木蓮の花言葉は、「自然への愛」だそうです。春の花が次々と咲き誇る中で、ひときわ大きな花を咲かせながら、まるで自然を謳歌しているような姿にちなんだものだと思いますが、それは同時に、自らを厳しく律しながら、黙々と修行に励む若き僧侶の姿にも似ています。

白い花を咲かせる白木蓮の花言葉は、「高潔な心」だそうです。ある辞書によれば、「高潔」とは「人柄が立派で、私利私欲のために心を動かされないこと」とあります。

私たちもまた、白木蓮のような高潔な志をもって、日々精進してまいりたいと思います。